

呉羽高校茶道部



和やかな雰囲気の中、茶道に精進しています。

令和6年度は新たに中西美和子先生を教授にお迎えし、おじぎのしかた、座りかた、歩きかたなどの基本動作からお点前までの一連の所作を身につけ、立ち居振る舞い、心がけなども学んでいます。

また、先輩は後輩を丁寧に教えています。呉羽高校茶道部の伝統です。

所作を身につけることは難しいことですが、一つひとつの動きや姿勢の意味を考えると、おのずと簡潔で美しい一連の流れになり、上達できたことが実感でき、より美しいお点前をめざそうとするのが、茶道の醍醐味でしょうか。

一服のお茶を点てていただくと、しだいに心が穏やかになっていきます。

毎秋の呉高芸術祭でのお茶会では、安らぎのひとときをお届けしています。

ぜひ、お越しください。心をこめておもてなしをします。

◇お稽古 月曜（自主練習）、金曜 15:30～17:30 於：三陵会館和室

春から秋まで 立礼式点前
秋から春まで 座礼式点前

部員数					指導の先生	
	3年生	男子	女子	合計	お名前	流派
5人 (令和6年度)	3年生	0	2	2	中西美和子先生 (茶名 宗美)	裏千家淡交会
	2年生	0	1	1		
	1年生	0	2	2		

コロナ後のお稽古（まだまだ感染対策・・・）

季節感を楽しみながら、おしゃべりに花を咲かせ、お菓子を味わっています。

点て出しやお菓子の取り回しなどには依然として配慮をしていますが、お稽古は少しずつコロナ禍前に戻ってきています。所作の一つひとつに向き合ったり、互いの点前をよく見たりと、より集中していけるようになったのは、部員みなで課題に向き合い、知恵を出し合い、話し合いを重ねてコロナ禍の試行錯誤の日々を乗り越えてきたおかげだと思っています。

一期一会のおもてなしはお道具を「清める」ことから始まりますから、お点前の前後、消毒や洗濯、掃除などの準備と片付けもお稽古の一環です。

先輩が後輩に所作の一つひとつを丁寧に教えていく呉羽高校茶道部の伝統は健在ですが、今後も、部員一人ひとりが亭主、半東、正客・・・など役を務めて、お茶席を開催できる日を心待ちにして、お稽古に日々精進していきます。



令和5年度呉高茶会を終えて

招待客限定で開催。・・・引退した3年生が水屋のお手伝いをしてくれました。

令和4年度に引き続き、招待客限定で、お茶席「一期一会」を企画しました。席数は3席と限定的なものではありましたが、黒川芳子先生のご指導の下コロナウイルス対策を講じ、また、引退した先輩方の水屋のお手伝いを得て、お客様をお迎えすることができました。

どんなにお稽古を積んでどんなに立派なお点前をしたとしても、自分一人では決して何もできない、チームワークがあってはじめておもてなしをすることができる、ということに改めて気づきました。お客様方、水屋の先輩方、そして黒川先生、本当にありがとうございました。

奥深い茶の道を究めていくことによって、人として日々精進を重ね、そして人とのかかわりを大切にしていけるように心がけたいと思いました。